



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第20回〕 お口の健康—歯科ドック

監修／歯学博士 鹿島 健司

皆さんは人間ドックを御存じですね。自覚症状の有無に拘わらず定期的に病院や診療所で身体各部の精密検査を受け、普段は気が付きにくい疾患や臓器の異常、健康度をチェックする健康診断の一種です。昨今、歯科の領域でも“歯科ドック”が行なわれるようになってきました。一生自分の歯で噛み、健康で快適な、楽しい生活を送るための根本的医療の入り口が歯科ドックと言えます。そのデータは、最善の予防策・治療方法を考えていく上での大きな指標となります。

私の開業している埼玉県川口市では、国民健康保険加入者と後期高齢者を対象に行政の支援によって数年前から歯科ドックが受けられるようになっていきます。

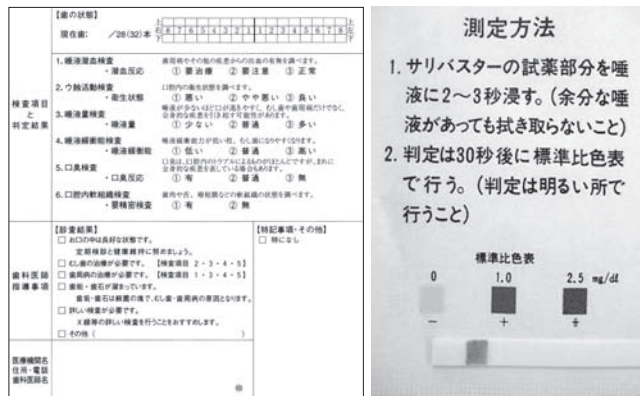


図1 川口市歯科ドック結果表 図2 潜血検査(サリバスター)

図1に、川口市の歯科ドック表の一部を掲載しましたが、歯の状態と現在の歯数の他に、1) 唾液の潜血検査、2) ウ蝕活動検査(唾液中のむし菌菌の数を測定)、3) 唾液量検査、4) 唾液緩衝能検査、5) 口臭検査、6) 口腔内軟組織検査といった事柄を検査します。

図2に示したサリバスターとは、唾液中の潜血濃度を判定するための試験紙で、歯周疾患のスクリーニングや評価のための検査です。クリーム色だと唾液中のヘモグロビン濃度が0で、濃い青になると2.5mg/dlということになり、歯肉をはじめとした口腔粘膜からの微細な出血を調べることができます。

ウ蝕活動性検査にはRDテストを使用します(図3)。これは唾液中のむし菌菌に反応する指示薬を用い、その色の変化によって、短時間でむし菌菌の数を測定する検査です。むし菌菌の数によって、指示薬が青色→紫色→桃色に

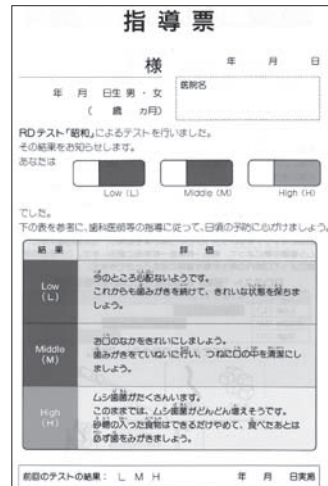
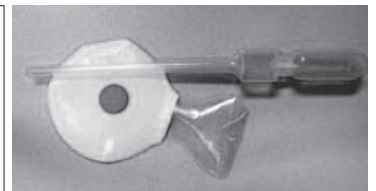


図3 RDテスト



(唾液採取用のスポイト)

指示薬の変化	むし菌の数
青色	少ない
紫色	多い
桃色	とても多い

(指示薬の変化とむし菌菌の数)

変化します。青色であれば、お口の衛生状態は良好ということになります。

お口の中は、通常pH6.0~7.0の中性状態ですが、食べ物が入ると急激に酸性に傾き、むし菌菌が活発に活動しやすい状態になります。唾液には、この酸性状態を中和しようとする働きがあって、唾液緩衝能と呼ばれています。これを測定することでむし菌菌に対する抵抗力を測定することができます。

口臭の原因は、歯垢、むし菌、歯周疾患、唾液量の減少等、お口のトラブルによるものがほとんどで、その約7割が歯科医院で改善できると考えられています。口臭を測定して原因を探って改善することで、大きく口を開けることもでき、自信の表れにもつながります。口臭の程度と機器の表示値とは下表のようになっています。



図4 口臭測定の様子と表示値

表示値	口臭の感じ方
~30	口臭を感じない
~50	かすかに口臭を感じる
~70	いつも口臭を感じるようになる
~90	明らかに口臭を感じる
~100	強く口臭を感じる

唾液の働きや口臭については、次号で詳しく説明することにしましょう。皆さんも、かかりつけ歯科医で“歯科ドック”を受けてみてはいかがでしょうか。

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月生まれ。かしま歯科医院院長 日本大学兼任講師。日本先進インプラント医療学会代議員・指導医・専門医